

一木・一草・一石



株式会社

造園・土木設計施工
宮城県知事許可(特-17)第10793号

かわら版

2007

秋

VOL.8

『一端』

新秋快適の季節、野山の赤トンボも風に乗って活発に舞う良き候となりました。皆様には一層ご清祥のこととご拝察申し上げます。

さて、当社はキャッチフレーズを「一木・一草・一石」を掲げ創業以来取り組んできました。シンプルにひとつひとつを丁寧に、こだわりを持って物事に取り組もうという心の有り方ですが、「一端」と云う考え方も重要だと思ふようになりました。その真意をこれからお話させていただきます。

20代より庭造りの世界に携わり大きなプレッシャーの中、沈没する泥舟にはなりたくないとの思いで懸命に漕ぎ続け取り組んで来ました。日々鍛錬を積みようやく向う岸に辿り着けそうかなと思うと別の河の向う岸が現れる。そしてやっと近づけたかなと思うと又、別の大河の流れが現れる、というその繰り返しを今日まで続けております。

40才に近づくにつれ庭造りという途方もなく奥が深く幽玄な世界が観えてくると、沈没しないだけでもよしとする自分にこれではならん、一から出直そうとの思いで四十の手習いに取り組みます。春夏秋冬、試行錯誤を繰り返すうちに一点に集中没頭することが出来るようになり、無意識という体験も幾度か経験できた気がします。

五十路を過ぎた頃からこの世界の魅力に尚一層取り付かれ、仁和(庭)造りに仕える事が有難く感謝を実感する様になりました。会社も自分も少しは一端(いっばし)になったような気もしました。しかし決して一人前では無く、庭造りという、とてつもなく広大無辺なステージの一番端っこにやっとの思いでしがみついているのだと、言い聞かせております。庭造りのキャンパスは大地と信じ、天然素材や物言わぬ生物と向き合い、異文化や異分野を学び平成の庭としての融合を図らなければなりません。又、現代の生活スタイルや庭の趣向に見合った空間演出の出来る柔軟な絵心で一端(いったん)を担う事も重要です。まだまだ向こう岸までは幾千のかじ取りが必要ですが、両方の「一端」の心で取り組み、お客様に満足頂ける事が我社のかけがえのない喜びです。私自身も第六感が必要な庭造りという事であれば、60才を過ぎてすこし五感が鈍くなった方がより味わい深い作庭が出来そうな気がし、生涯現役で身も心も注ぐ気概でおります。その心で尚一層の精進を続ければ、少しは一人前に辿り着けるのかもしれない「百里の道一里残して道半ばなり」の精神ではるかなる向岸を目指し漕ぎ続けて参ります。

代表取締役 齋藤 千明



シリーズ①
第八話
親方の小言

Events・Info.

社の都づくり

第59回 秋の 植木市 開催中

9.29(土) ▶ 10.14(日) 16日間

西公園

当社モデル庭園 出展中

予告 とうほく蘭展 & バラとガーデニングフェスタ2008

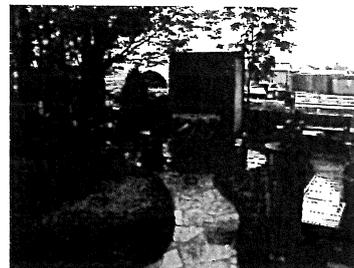
2008 1.31(土) ▶ 2.4(月) 5日間

● 会場 夢メッセみやぎ ガーデニング 販売・PR部門 出展予定

庭広場 グリーンゲートガーデン

■ キッチンコーナー (リニューアル)

センターハウス前のキッチンコーナーに今人気の「カンナ」物置が仲間入りしました。「カンナ」の出現により、サークルとバーベキューテーブルが尚一層調和され、更に、立水栓や門柱も同素材を用い、一つの景色となっています。是非ともお立ち寄り下さい。





提案型を目指して

H19年1月の業界誌「グリーン情報」に当社が掲載された内容の抜粋記事より

<リ・ガーデン>

リ・ガーデンとは、(社)日本造園組合連合会が平成9年から提唱し続けている造語で、それぞれの事情に見合った庭の改造を幅広く一般市民に提案し、新たな和みと潤いのある空間を提供しようという取り組み方。我が社も独自の工夫を重ね、お客様へ提案している。以下はリ・ガーデンの動機である。

①建築などの改築後のリ・ガーデン

二世帯住宅に建て替える。ガレージを拡張した後の改造など。その際、処分される庭木が高い確率で発生する。その時は、庭木などの媒酌人になるようにしている。処分をすると経費も掛かるし、手塩にかけた植物の悲鳴が聞こえてならない。自社のグリーンバンクの受け入れ先リストに基づき、お客様に経済性や撤去する理由、リ・ガーデンの重要性を説明し引き取って頂く様にしている。双方のお施主には感謝を頂き、当方としても起業になる。何よりも難を逃れた庭木が新天地を得て、生き生きとした表情に満足感がある。行き場を失った庭木の有効活用は、我々植物に携わる者としての使命だと思う。そして、5~10年先を見据えたシンプルガーデンを提案する。

②庭の趣向の変化

ガーデニングによって草花・ハーブ・野菜等と共に、土に触れる機会が増え、見て感じる和の庭ばかりでなくベットと戯れる庭、土に勤しみ触れる庭の「遊観」としての多様化が要求される。それに伴いベンチ花壇や、立体菜園、ペットガーデンを提案する。もちろん一坪和風も取り込む。

③生活スタイルの変化

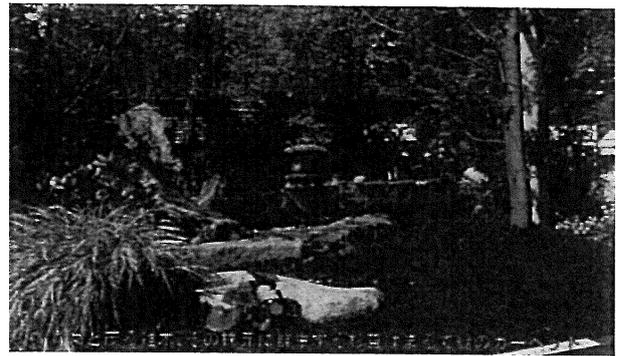
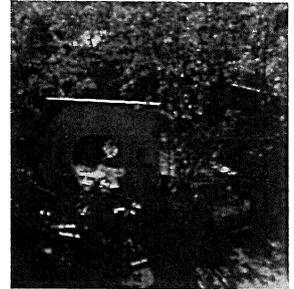
日々の生活に自然志向がみられる。休日には遠出しなくても、我が家の森で木漏れ日や、ポッカリ空いた青空を見たい…。そんな時は、3本の庭木で森づくりを提案する。又、帰宅後にはプライベートガーデンのライトアップにてリフレッシュしたい…。そんな時は癒し空間のイブニングガーデンの提案をする。そして、草花から野菜も含めた農芸ブームの到来。それによって自家生産の新鮮さの発見がある。四隅に追いやられている菜園をリビングやキッチン中央にデザイン化し、明日の食材を、見て褒めてのキッチンタイムの提案。

④家族構成の変化

バリアフリーの庭。スロープ化ばかりでなく、手摺を設け車椅子でクリア出来る最小高さと、ゆったり階段を設け、機能性とデザイン化を取り入れる。子供のいるご家庭には子供の森づくりとして、ツリーハウスの下に砂場やトンネル等のドリームガーデン。樹木と共に成長するように庭の誕生日を作ってあげたり、手形・足型をスタンプするのも良い。

⑤その他

出庫後のガレージの有効活用としてワークスペースの実用化。立水栓とシンクの新たな発想や、物干し・自転車置場の融和化など。従来の庭園改造は主に①が多かったと思うが、今後は②~⑤を主とし、積極的にリ・ガーデンを提案していこうという造園連の取り組みである。時代の変化に瞬時に対応し、家と庭・家内と亭(庭)主に柔軟なトータルプランを発信できる、わが業界でなければと思う。



シリーズ② 庭づくり基礎と術



庭のお手入れ法



落葉樹は葉の色を黄色や紅色に変え、落葉の準備を始めています。庭の手入れはいろいろな方法がありますが、樹木が自然に生育する姿を楽しむ時には、落ち葉も自然に戻す方法が似合っているように思えます。

10月

翌年の芽吹きに備え、着々と養分を貯え、早いものは色づき始める樹木もあります。樹木・草も伸びが止まり、剪定後、形状が整ったまま眺められる期間が一番長いのはこの季節です。(翌年4月下旬頃まで徒長しません)

11月

落葉樹はそれぞれの色合いを放ち、晩秋を楽しませてくれます。すす病 やうどんこ病にかかった葉は、根元から除去、翌年の発生源にもなるのでマルチングとしては不適です。葉が落ちた後の樹形から不要なふところ枝、平行枝、逆さ枝が容易に判断出来ますので、切り落としましょう。

12月

<12月>サザンカがこの寒さを待っていたかの様に花を咲かせ始めます。翌年の芽出しに必要な養分として、寒肥(有機肥料)はこの時期から始めても良いでしょう。苔には松葉敷きにて防寒プラス風情も兼ねて。

3月

<1~3月>寒風にさらされこの間は非常に乾燥します。土中では根がしっかり活動しますので、暖かい日中の灌水も養分となります。(本来積雪が風から身を守り、少しずつ解けて水分を補給しますが、温暖化でそれも期待出来ない)バラの強剪定は2月頃適期。

発行 株式会社 竜門園
981-3111 宮城県仙台市泉区松森字前沼48-2
Tel. 022-373-3934
Fax. 022-375-9622
Email info@ryumonen.co.jp
URL http://www.ryumonen.co.jp

庭広場 グリーンゲートガーデン
981-3117 宮城県仙台市泉区市名坂字油田4-1
Tel. & Fax 022-373-5554
●営業時間/午前10時~午後5時
●定休日/毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌火曜日)
●入場料/無料・専用駐車場有

